

AFTERNOON TEA

産業医科大学第1生理学

橋本 弘史

福岡大学医学部生理学講座の佐藤かお理さんからバトンを受け取りました。産業医科大学第1生理学の橋本弘史と申します。私が研究医員だった頃、当時生理学研究所にいた佐藤さんが、共同研究で当教室に見学に来られて以来、仲良くしてもらっています。

私は産業医科大学を卒業して15年になります。2年前に母校に戻ってきました。自分が後輩達を指導するのは、何だか変な感じです。というのも、自分が学生だった頃のことを思い返すと、本当に不真面目で、講義中は寝ているか、本を読んでいるかです。しかも、本と言っても、競馬雑誌です。そんな学生なので、研究に興味を持つこともありませんでした。産業医科大学は産業医を養成する目的の大学です。卒後は産業医になる義務があります。私も卒後臨床研修終了後には産業医になるつもりでした。研究についても、一度も考えることはありませんでした。それが、何故、研究をすることになったのか。同級生に会うと必ず以下のような会話が交わされます。

「今、何をしているの？」

「第1生理で研究している」

「え～、何で？ 想像できない。研究に興味あったの？ 何か心境の変化でも、あったの？」
です。そのくらい、私が研究をしていること自体が、意外性に溢れているようです。そう言われると、自分でも不思議に思うことがあります。最初は、単に学位を取りたい！ それだけでした。臨床研修終了時点で、そのことを部活の先輩でもある上田陽一教授に相談したところ、「産業医しながら、研究に来たらどうか」と言われました。自分なりに考え、「中途半端は嫌なので、大学院の4年間、しっかり研究をやります」と、翌年の春に大学院入学となり、研究生活がスタートしました。

当教室では、視床下部一下垂体系、特に下垂体後葉ホルモンの中枢作用について、解剖学的、生理学的、行動学的手法を用いて研究を行っています。最初は、何をしているのかもよく分からず、失敗ばかりで、なかなか進みませんでした。例えば、実験用にラットを揃えたのに、その準備のために私が手術を行うと、手術が終わった頃には、ラットの数、実験できるだけの数に全然揃っておらず、もう一度やり直しになったことは1度や2度ではありません。そんなことにも怒らず、じ～と待つて頂いた、上田先生には本当に感謝です。そして、とにかく時間をかけて、何でも「はい、やります！」の精神で、たくさん実験をさせて頂きました。幸運にも、結果が出始めると、次第に楽しくなってきました。最初の自分の論文がアクセプトされ、PubMedに掲載された時の気持ちは、我が子が生まれた時のようでした。「僕の生きていた証」を残せた！ という感じでしょうか。それからは、研究に“はまり”，学位取得後、英国に留学までしてしまいました。帰国後、企業での3年間の産業医生活を経て、2年前に大学に戻ってきた次第です。不真面目な学生を見ると、自分の学生時代のことを思い出し、彼らも研究を一度やってみれば、面白い！ と感じるかもしれないのになぁ と感じます。研究を始めてから、時々思い出すことがあります。論語の「知之者不如好之者 好之者不如樂之者」という言葉です。「ただ知っているだけではなく、好んでやっていたらもっと上達するし、楽しんでやるのが一番いい！」ということでしょうか。大学院生の頃の様に、どっぷり研究に浸かるというわけにはいきませんが、その言葉を思い出しながら、楽しんで研究をしていこうと思います。



Hello PSJ

Department of Neurobiology, Duke University

兎田 幸司

アメリカで暮らす僕にとって、故郷である日本の友人からのお便りというのは、いつでも、とってもうれしいものです。筑波大学の大学院にいた頃に貴重な時間を共にした瀬戸川剛さんから、ひさしぶりにメールが届きました。生理学会誌の Afternoon Tea に一筆書かないかとのことです。歴史と伝統ある生理学の雑誌において、僕のような、生理学会での発表からも足が遠のいてしまって久しい、まだ何事も成してない、何者でもない若造が紙面を汚すことが果たして受け入れられるのだろうか、という不安と戸惑いを感じました。ただ、大学院の頃から Hello PSJ や Afternoon Tea を読み、毎年の若手の会サマースクールへの参加を楽しみにしてきた僕にとって、「生理学の仲間」の輪」という誘い文句はとても魅力的で、二つ返事で引き受けてしまいました。

現在は、ノースカロライナのダーラムという田舎にあるデューク大学で、ポスドクとしてサルを用いた研究をしています。学会などで日本人に会う機会があると、「デューク大学ってどこにあるのですか」と聞かれます。「ノースカロライナという州にあります」と答えると、きまって今度は、「ノースカロライナはどこにあるのですか」と聞かれます。「サウスカロライナの北にあります」という答えで満足していただいたことは一度もなく、「東海岸の真ん中のあたり」とか、「ニューヨークとフロリダの間ぐらい」と答えると、みんなそれぞれに、わかったような、わからないような顔をして、地理の話はおしまいになります。

そんな辺境での暮らしで、一番驚いているのは食文化の豊かさです。アメリカで食事がおいしいなどという、いったい日本ではどんなものを食べていたのかと、かわいそうな目で見られてしまう場合が多いです。しかし、それぞれの食材に適

した調理法を工夫することで、ささやかながらバラエティに富んだ食事を味わうことができます。スーパーに行けば、赤身のおいしいアンガスビーフなどの牛肉だけでなく、バイソンやエルクといった様々な種類の肉が並んでいますし、名前と見た目からは味がまったく想像もできないような魚を買ってきては、煮付けにしてみたり、塩焼きにしてみたりと、あれこれ試行錯誤することも楽しみのうちです。また、ダーラムを含めたノースカロライナのリサーチトライアングルエリアには、世界各国の食品店が点在しております。それぞれの国の友達をみつけては、文化的な背景などを教えてもらいつつ、新しい食材に挑戦できるのも、インターナショナルな土地柄ならではの醍醐味ではないかと思います。

アメリカで生活していると、様々な国の人々と出会うことで、あらためて自分自身について考えさせられる機会が多くなります。また、多種多様な文化との比較を通して、日本人の性格的特徴、あるいは日本文化の特色というものが、おぼろげながら相対的に浮かび上がってくるようになりました。それと同じように、「人間とは何か」ということを考えようとしたとき、ヒト以外の他の動物種との比較が重要になってきます。では、その心はどうでしょうか。ダーウィンの進化論に則って考えれば、ヒトの心も進化の産物であるはず

です。僕は、ポスドクになってから、自分の専門を開かれる機会があると、いくぶん躊躇しながらも、「比較認知神経科学」と答えるようにしています。自分がこれまで学んできた、動物の認知機能とその進化を行動実験によって調べる「比較認知科学」、脳の成り立ちとその進化を調べる「比較解剖学」、認知機能の神経基盤について神経生理学的手

法によって調べる「認知神経科学」を融合させることで、自分なりの視点で、新しい学問のフロンティアを切り開いていけないか。そんな大胆な意気込みの、ささやかな表明でもあります。

ここ最近では、ヒトを含む霊長類の進化の過程で特に発達した「自己意識」や「他者理解」といった社会的認知機能が、同じく霊長類で特異的に拡大した脳の領域でどのように担われているのか、という興味深い難題に挑戦しています。動物は言

葉をしゃべりませんし、明確なカタチをもたない心は、化石には残りません。「比較認知神経科学」というアプローチを通じて、ヒトの心が進化してきた道筋を明らかにしたい。そして、「自分とは何か、人間とは何か」、「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」という問いに、自分なりの答えを見出せたらと思っています。



Afternoon Tea の編集を担当して思う仲間の輪

東京医科大学細胞生理学分野

田代 倫子

生理学会編集広報委員になり、Afternoon Tea を担当して3年目になりました。引継ぎの際、前担当者の渡辺賢先生から、「電子メールは一両日中に返信し、執筆御礼のメールには感想を添えるように。」と言われました。つまり、原稿添付のメール到着を確認したら、すぐに読んで感想を書かなければなりません。慣れないうちは“たいへんだなあ〜”と思っておりましたが、最近では生理学会員のだなたよりも先に原稿が読めることを有り難く感じています。寝る間も惜しんで研究をしている方々が、時間を作って執筆して下さった原稿はどれも貴重、熱い思いが込められています。内容は、夢中になっていることの紹介、研究への情熱、恩師や家族への感謝など様々ですが、どの稿も日頃忘れてしまう“大切なこと”をふと思い出させてくれます。原稿拝受の返信には3行ほどの拙い感想を添えますが、それに対してお返事を頂くことも少なくなく、お蔭様で研究分野も世代も違う方々との新たな交流を楽しませて頂いており

ます。

振り返れば、3年前編集広報委員を仰せつかりましたのも人的交流のお蔭。毎年学会でお会いすることを楽しみにしている先生方からのご推薦です。生理学会の大会では論文の査読をなさる先生のご意見が聞けたり、近い研究をしている方から情報を頂いたり、共同研究のきっかけになったりと、“大切な交流の場”と自分を鼓舞して臨んでいます(時には二日酔いと闘いながら・・・)。特に生理学会はいろいろな分野の方が参加されますので、直接研究には関係ない所で意外な出会いがあるかもしれません。

今回は、私が Afternoon Tea 編集に携わり感じた“人との繋がり”について綴ってみました。Afternoon Tea の趣旨は、生理学会の仲間の輪を拡げることにあります。バトンを繋げて、生理学会員が輪が拡がり、会員の皆様の研究生活がより豊かになりますことを祈念しております。